

平成 27 年度第 1 回国際学術情報流通基盤整備事業運営委員会 議事要旨（案）

1. 日 時： 平成 27 年 8 月 4 日（火） 15:00～17:00
2. 場 所： 国立情報学研究所 20 階 実習室
3. 出席者：

（委員）

逸村委員（筑波大学）、今井委員（東京大学）、森委員（京都大学）、土屋委員（大学評価・学位授与機構）、小林委員（高エネルギー加速器研究機構）、深貝委員（横浜国立大学）、尾城委員（東京大学）、荘司委員（早稲田大学）、安達委員、酒井委員（国立情報学研究所）

（陪席）

菅原係長（文部科学省）、小陳室長、前田係長（国立情報学研究所）

（事務局）

細川課長、高橋副課長、吉田係長（国立情報学研究所）

議事に先立ち、各委員より自己紹介があった。

4. 議事：

（1）前回議事要旨（案）について

高橋副課長から、資料 1 に基づき説明後、内容の確認、及び前回出席していない委員には不明な点について問い合わせを依頼し、了承された。また安達委員長より、OA を巡る国際的な動向、SPARC Japan の国際連携や今後の課題について説明があった。

（2）平成 27 年度 SPARC Japan セミナーの活動計画について【審議】

高橋副課長から資料 2-1、2-2 に基づき説明後、意見交換を行い、活動計画について了承された。意見交換においては、研究者へのアウトリーチの重要性、JSPS によるリーフレット配布、OA をめぐる国際動向、特にヨーロッパにおける動向を踏まえた 12 月開催の Berlin 12、その中での図書館の役割、海外研究資金提供団体の動向、機関リポジトリの役割、研究者 SNS サービスの役割などが話題となった。

（3）「HORIZON2020 によるオープンアクセス政策とオープンサイエンスの国際的課題—学術情報流通における日欧の共通課題と大学図書館の役割—」【審議】

高橋副課長から資料 3 に基づき説明後、意見交換を行い、SPARC Japan 運営委員会として後援することが了承された。

（4）国内研究者による論文公表に関する調査について【審議】

尾城委員から資料 4 に基づき説明後、意見交換を行い、今後の SPARC Japan の事業企画に役立てるため国内研究者の論文発表状況の実態、OA 論文に関する調査を JUSTICE と合同で行うことが提案され了承された。調査は詳細を検討し、提案者が具体的に活動し、次

回の運営委員会で進捗の報告を求めることとした。

(5) SPARC Japan 第4期のまとめについて【審議】

高橋副課長から資料5に基づき説明があり、第4期の基本方針の確認、活動内容のまとめ、第5期に引き継がれる課題として、国際イニシアティブとの協調、アドボカシー活動があることを確認した。

(6) SPARC Japan 第5期基本方針について【審議】

高橋副課長から資料6に基づき説明後、意見交換を行った。意見交換では、オープンサイエンスの扱い、(人文社会系におけるものも含め)オープンデータへの対応、研究者ID(特にORCID事業との関係)、学協会との連携が話題となり、議論の結果、第4期まで取り組んできた課題にオープンサイエンスをスコープに入れることが了承されたため、基本方針は、本日の議論も踏まえ、事務局にて具体的な方針案を作成し、次回の委員会(11月～12月)に提案することとした。

(7) その他

特になし

以上